

福島のぶゆき国会日誌

〈雇用保険法等改正法案の参考人質疑に立ちました〉



動画をチェック！



9日、厚生労働委員会で、雇用保険法等改正法案について、有識者からの参考人質疑に臨みました。

参考人として、学識者の立場から学習院大学教授、労働界の立場から連合総合政策推進局長と全労連副議長、会社側の立場から経団連労働政策本部副本部長、教育訓練を進める立場からリクルートワーク研究所主任研究員に、それぞれお話を伺いました。

各参考人のお話は分かりやすかったものの、現場の実際にリスクを受ける側や、教育現場からの生の声もお聞きしたいとも思いました。こうした社会保障制度は、それぞれの立場の代表者による「制度のための制度論」になりがちで、当事者の感覚がなくなってしまうのです。時間がなくて、地元でそうした声を聞けなかったのが悔いが残ります。

〈ダブルヘッダーで質疑に立ちました〉



←国交委
厚労委→



動画をチェック！

10日、国土交通委員会、厚生労働委員会にて質疑に立ちました。合わせて65分の各大臣との質疑では、濃密な議論を行っておりますので、ぜひYouTubeをご覧ください。

国土交通委員会では、物流の2024年問題について。これまで地元で関係者の皆さんから聞いてきたことを下に、如何に今回の法案が地方の中小零細の運送事業者から見て現場実感がないのかということを中心に議論いたしました。

政府は「標準的な運賃」があるから大丈夫と言いますが、実際に標準的な運賃を提示してその料金でやれている事業者は、1%以下。ほぼゼロです。建設業法などで定められている下限料金制度が必要だと訴えました。



厚生労働委員会では、雇用保険の適用拡大により中小零細企業が新たな保険料の負担を負うことになる意義をどう説明するのかなどについて議論をいたしました。官僚答弁のままでは、ただでさえ社会保険料負担に苦しむ皆さんは到底納得しえませんが、一部おかしな答弁もありましたが、武見厚生労働大臣は自分の言葉でそれなりに精いっぱいお答えいただいたと思います。

特に、今回育児休業給付金の国庫負担割合は本則のものに引き上げられるのに、介護休業給付金の国庫負担割合は低く下げられたままです。私たちの世代にとっては介護も深刻な問題ですので、介護休業給付金を使いやすい制度に見直すとともに国庫負担割合を本則まで引き上げることを求めました。

〈日本農業新聞への掲載〉

昨日の日本農業新聞に久しぶりに登場いたしました。現在衆議院では「農業の憲法」とも言われる食料・農業・農村基本法改正法案の審議が行われておりますが、日本農業新聞の紙面も含めて、今の日本農業への危機感や新しい農政への高揚感などをあまりにも感じないように思います。特定の団体や一部の議員の「お仕事」になってはいけません。



〈中国による人権侵害を究明し行動する議員連盟〉



中国による人権侵害を究明し行動する議員連盟では、モンゴル人チベット仏教高僧のアジャ・リンポチェ師をお招きして、中国の宗教政策についてのヒアリング。1995年にチベットのラサで行われた第11世パンチェン・ラマを選ぶ「金瓶掣籤」の儀式（黄金の壺の中の三つの象牙の杓を引いて選ぶ儀式）において、中国政府の介入でインチキが行われていたという衝撃の事実をお話いただきました。

これからも他の民主国の皆さんと共に、チベット、ウイグル、内モンゴル、香港などの人権状況を監視し、普遍的な人権水準を実現するよう求めてまいります。